



# 大梅

DAIBAI

大梅拈華山 圓通正法寺





## 山主挨拶

正法寺 山主 盛田 正孝

御尊臺皆様方には恙無くお暮らしの事と存じます。正法寺も皆様方のお力添えを頂き乍ら、無事安寧の毎日でございます。心から感謝御礼申し上げます。

昨年は、太祖大師の大遠忌を、心を込めて修行することができました。本年は太祖大師の御教えの更なる実践をするのみであります。世の中の価値観が多様化し、何を大切にすべきかが曖昧となり、愉しみ方も多様化し、あふれております。その様な中

で外から与えられる一過性の愉しみではなく、自己の中から湧き出てくる喜びを求めようになるのではないのでしょうか。

トルストイの「年の終わりに振り返って、年頭の自分よりも成長したと確認出来ることぐらい幸せを感じることはない」と言う言葉は、多くの人々に当てはまる言葉であろうと思います。

修行僧も同様で、たとえ未熟であっても、確実に、自分なりに成長していることの確認ができることは、わずかな進歩であっても自分にとっては嬉しい事であり、これこそが深い喜びであり愉しみと言うべきものであろうと思います。本年も宜しくお願い申し上げます。

## 御挨拶

正法寺末寺護持会会長 願成寺

芳川 春彦

昨年は、正法寺末寺護持会の皆様への会費、発展興隆奉賛会趣旨に賛同された皆様の会費並びに御協賛頂いた多くの皆様の御芳志により、これまで懸案事項となっていた諸堂の修繕事業を順調に進めることができましたことに改めて感謝の意を表す次第です。

コロナ禍明けにより、諸行事も順調に行われるようになり、臨時行事も新しい行事なども増えて、地域の皆様も参加する行事として親しまれております。



これも盛田正孝山主老師の発案の元、山内を一般の方々にも広く開放して地域の皆様により親しまれる地方僧堂の立ち位置としての新しい姿を築こうとしております。正法寺を支援して下さる多くの皆様の更なる御理解と御支援の程を賜りますよう伏してお願ひ申し上げます。

末筆ながら皆様様の御隆盛と諸老師皆様の法臘延長を祈念申し上げます。御挨拶といたします。



# 僧堂だより

正法寺専門僧堂では現在、3名の修行僧と共に僧堂生活を送らせていただいております。冬の期間の主な行持といたしまして、12月1日～8日未明にかけて臘八撰心を行いました。僧堂役寮、修行僧、また山主老師御縁の蔵輝会（北海道）の皆様方。そして、毎月第2、第4土曜日に実施している土曜参禅会会員の皆様方と共に修行致しました。厳粛な時間を過ごし、僧堂生活の中でも、特に自分と深く向き合う大切な期間なのだと思っております。静寂で清らかな空気に満ちた中で、今年も坐ることができました。8日未明の積尊成道会献粥諷経、禺中の献飯諷経も恙無く修行致しました。

年明け、今年の寒の入りである1月5日から節分の2月2日まで寒行托鉢を行いました。

例年、寒行托鉢が始まる前に、托鉢で使用する持鈴、頭鉢、頭陀袋、網代笠等の支度を行っています。同時期に、修行僧には托鉢中に読経する「龍樹菩薩準提大明陀羅尼」の唱え方を練習いたします。現在安居している修行僧は皆、去年の托鉢も経験しており、去年と比べしっかりと道も覚え、歩く速度、読経、声の大きさなど細かな部分もしっかりとできており、その成長を頼もしく感じました。正法寺と同教区青年部の皆様のほか、近隣寺院の皆様も随喜していただきました。冷気が身に染みの中で一歩一歩の重みを感じ、街の皆様が温かい施しに触れながら無事に修行することができました。この様に、山主老師はじ

め、役寮、大衆、御縁のある皆様方のお力添えを頂戴し、先に記した年分行持ももちろんですが、日々の生活・行持もしっかりと務めさせていただいております。

盛田正孝山主老師の「安居中は、多くの経験を積んでほしい」との思いから、山内行持では、大衆が維那を務めます。


先ず大衆は、春日和光後堂老師による行持規範に則した学科を聴講して基礎を学びます。その後、維那の任に当たる者は、自ら維那和尚のもとを訪れ、維那が行う進退作法のほか、「宣疏跪炬」で宣読する疏の読み方について学びます。正法寺専門僧堂の安居者は、与えられるのを待つのではなく、修行者としての自覚を持ち、自ら進んで学ぶ姿勢を持つていくことが特徴でもあります。

起床から就寝まで一挙手一投足全てが修行であり、仏道の実践です。役寮の役割として修行僧一人ひとりを見守り、それぞれに応じた助言を与えつつも、過度な干渉はせず、自ら気づきを得る環境を整えることを心掛けております。教えずがままでも、困っている時、迷っている時があれば、次の考え、行動に進んでいくことができるように指導していきたくと考えております。

僧堂は、修行僧と役寮が共に修行する場であり、和合の精神を大切にしてお互いの関わりを通じ、お互いの自己を磨き、身心ともを養い、これからも一日一日を大切に過ごして参ります。







# 令和六年冬制中 首座法戦式

『麻谷振錫(まよくしんしゃく)』

令和6年12月13日(金)より、首座・佐々木大賢(宮城県第418番光明寺徒弟)、書記・伊藤裕磨維那補和尚、辨事・千葉隆平(宮城県第401番少林寺徒弟)を中心に、冬制中に入りました。

入制に際し、13日(金)に配役行茶、首座入寺式、入制土地堂念誦が、翌14日(土)朝課罷に法堂人事行礼、僧堂人事行礼をそれぞれ修行しました。令和7年2月25日(火)の本則行茶では、盛田正孝山主から、「従容録」第16則「麻谷振錫」について提唱を頂きました。翌26日(水)には首座法戦式が厳修され、首座和尚の気迫溢れる声により修行のテーマをしっかりと理解した10問の問答を商量致しました。







## 首座寮から



首座

宮城県 第418番

光明寺 徒弟 佐々木 大賢

私は令和6年冬制中において首座の任を拝命致しました。首座は僧堂における、修行僧の第一座でございます。修行僧のお手本である首座は、その進退の二つに責任を持たなければなりません。毎日の作務、公務、そして法式進退など、日々の修行生活における私自身の姿を通して正法寺が見られているという事を自覚し、書記和尚、辨事和尚と共に、「正法寺の第一座」としての責任を全うし、首座の任に当たらせていただきます。

正法寺専門僧堂に上山してから二年が経ちました。かつての私を振り返りますと、自分が如何に未熟で、周りの環境に甘えていた存在であったかを痛感致しました。私は、人見知りや激しく、人前に出るとすぐに顔が赤くなってしまう、上手く言葉が話すことが出来なくなる人間でした。話すことも、覚えることも苦手な私にとって、僧堂における集団生活は辛く厳しいものでした。正法寺専門僧堂に安居させていただく以前、私は、大本山永平寺、札幌中央寺専門僧堂で修行してまいりました。他人との関わりを避け、辛い現実を直視出来ず、私は常に「逃げ」ばかり이었습니다。辛いことから常に逃げ続け、責任から目を逸らしていた私が、首座として修行僧の先頭に立ち、手本となるということに、自分は果たして任を全うすることができるのだろうかと不安な気持ちで二杯でしたが、そんな私を山主老師をはじめとした役寮の皆様が支えてくださり、正法寺の首座として必ずこの恩に報いる制中にしたと決意しました。

現在、正法寺専門僧堂の安居者は、私を含めて3名。一人ひとりの責任も多くなりますが、解制を迎えるまで怠ることなく、一日一日を大切に制中にして参ります。



辨事

宮城県 第401番

少林寺 徒弟 千葉 隆平

今冬制中、辨事の配役を拝命致しました。私自身、昨年の冬制中でも辨事の配役を頂いており、今回で2度目であり、安居中に2度もこの様な経験をさせていただくことができ誠に有り難く思います。

辨事和尚は制中期間、書記和尚と共に首座和尚を補佐する役です。また、首座法戦式では本則の頌を読み上げ、最初の法問を問いかける役も担います。その様な大切な役をいただきましたので、気持ちを新たに辨道精進して参ります。

今冬制中における専門僧堂正法寺の安居者は、私を含めて3名ととても少なくなっております。しかし、全員が一年以上安居を経験していることもあり、少人数ながら工夫しつつ日々の公務に励んでおります。この制中期間は修行に対する意識をより一層高め、集中して修行に打ち込む大切な時期です。人数は少ないですが、全員が正法寺専門僧堂での一年を経験している為、一人ひとりが何をすべきか分かっています。各々の工夫次第でこれまでの制中よりも修行の質を高めていけると考えております。私自身、今制中の寒行托鉢が安居して2度目となりました。去年の半数以下の人数ではありましたが、幸い雪は少なかつたものの、寒風が吹き荒れる中で一ヶ月でした。どんなに寒くても、風が強くても、我々の誦経の声や、鈴の音を聞いて玄關からお出でいただくばかりか、車で移動中の方も車から降りて浄財を喜捨してくださる方々が多く、自分たちが托鉢という修行をさせていただいていると実感することができました。この様な事を言葉ではなく実体験として受け取る事ができ、有り難く感じております。

この様な経験を積み重ねて、修行の有様を考え、実践して参りたいと存じます。



# 山門行持

【令和6年】

▼9月18日(水)

・早池峰山拝登

▼9月29日(日)

・両祖忌

導師渡邊泰玄師(奥州市・永徳寺)

▼10月1日(火)

・僧堂換簾

▼10月5日(土)

・第2回法堂姫神コンサート

▼10月6日(日)

・月例法話会

法話者 盛田正孝 山主

▼10月9日(水)

・僧堂視學員視察

▼10月16日(水)

・熊野大権現大祭祈祷会

導師 春日和光 後堂

▼12月1日(日)～8日(日)

・臘八摂心

▼12月9日(月)

・断臂摂心

▼12月13日(金)

・冬安居配役行茶

・首座入寺式

首座 宮城県 418番

光明寺徒弟 佐々木大賢兄

・入制土地堂念誦

導師 松森弘隆 単頭

▼12月14日(土)

・入制人事行札

▼12月31日(火)

・歳末土地堂念誦・歳末諷経

導師 松森弘隆 単頭

・除夜の鐘

【令和7年】

▼1月1日(水)

・元朝大祈祷会

導師 盛田正孝 山主

▼1月5日(日)～2月2日(日)

・寒行托鉢

▼1月19日(日)

・文化財防災デー消防訓練

▼2月15日(土)

・积尊涅槃会

導師 盛田正孝 山主

▼2月25日(火)

・本則行茶

『従容録』第16則「麻谷振錫」

▼2月26日(水)

・首座法戦式

## 早池峰神社 拝登

令和6年9月18日

(水)、早池峰神社を

参拝致しました。早池

峰神社は、岩手県花巻

市にある早池峰神社か

ら分霊した正法寺の大

権現神社。毎年、集落

の講員の方々と共に修

行僧が参拝。

山頂社前にて神前誂

経致しました。



## 両祖忌

令和6年9月29日

(日)、岩手県第6教

区の有志寺院が正法寺

法堂に会し、永徳寺住

職・渡邊泰玄老師が導

師を務め、高祖承陽大

師永平道元禪師ならび

に太祖常済大師瑩山紹

瑾禪師の御威徳を偲び

両祖忌を修行致しま



## 熊野大権現大祭祈祷会

令和6年10月16日(水)、正法寺末寺御寺

院ならびに有志僧侶の随喜を賜り、正法寺御

本尊如意輪観世音菩薩の御前で春日和光後堂

が導師を務め「熊野大権現大祭祈祷会」を執

り行い、祈願主様のお祈りと、この世に暮ら

す人々の安寧と世界の平和をお祈り致し

ました。





## 臘八摂心・成道会

12月1日(日)～8日(日)にかけて臘八摂心が修行されました。12月1日から1週間、お釈迦さまが菩提樹の下で坐禅修行を続けられ、12月8日にお悟りを開かれたことを坐禅修行で体現する臘八摂心。昨年も県内外より有志僧侶の皆様が来山され、摂心修行ができたことは修行僧の励みとなっただけでなく、専門僧堂正法寺としての一面を垣間見る事ができました。60柱を超える僧堂での坐禅と、山内役寮による提唱などを含め坐禅三昧の時を過ごしました。7日目の土曜日は朝から、土曜参禅会の参禅者も一緒に坐りました。8日間に亘る坐禅修行を終え、「成道会献粥飢経」を厳修し、お釈迦さまの御威徳を偲び、摂心修行を終えました。



## 臘八摂心 随喜者より

宮城県 耕徳寺住職  
長谷川 俊昭 老師

以前、山主老師は「正法寺は、老若男女、在家出家にかかわらず誰もがいつでも坐禅を組みに来ていただける修行道場です」とお話しになりました。この言葉をお聞きした時から、正法寺様の摂心に随喜させていただくことが私の念願でした。

12月7日、雪化粧で荘厳さが増す大伽藍の前に身が引き締まりました。静まり返った堂内で、御山内、一般参禅者の方々と共に、ただ只管に坐る、その一炷一炷は自分自身と向き合うかけがえない時間となりました。

また山主老師はじめ、役寮の老師方、雲衲の皆さんの行持綿密さを、坐禅以外の時間を御一緒することで肌身に感じることができ、初心にかえる有難い経験となりました。

坐禅は、それ自体が目的であり、いつでもどこでも、一人でも坐ることができます。私は、これからも折に触れ、たとえ一日であっても拝登し(百千万の発心を重ねるつもりで)坐らせていただきたいと思います。8日未明の明けの明星を見上げながら、そのようにお誓いをいたしました。

末筆となりますが、摂心のお忙しい中、あたたかく迎え入れてくださり、お心配りをいただきました。御山内の皆様様に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## 土曜参禅会有志の方より

千葉 雅子

初めての摂心。不安と緊張を抱きながら、外単に与えていただいた場所面で面壁した後、遠くから微かに僧堂に近づいてくる足音が聞こえました。戸が開き、私の背後を通り過ぎる「音」。目に見えずとも盛田山主老師の圧倒的存在感に、私の不安と緊張感は安心感へと変わっていききました。

中食をいただいた後、蔵輝会の富田老師の言われた「我々は皆さんにお話する為に北海道から来た訳ではないんです。盛田老師と一緒に坐禅する為に来たんです」という熱い思いを聴き、この場所に私が一緒に居られる事に喜びを感じました。

そして、「何処で、誰と、どのようになりたいのか?」という問いを改めて考えるきっかけにもなりました。ありがたい気持ちでその後の二炷も坐禅に臨むことができ、盛田山主老師の下で同じ時間を共に生きた喜びは、私の人生の中でかけがえのない宝物になりました。

私は「お金で買えないからこそ価値がある」という価値観を大切にしています。私は以前「お釈迦さまが私達と同じ人間ならば、私達もお釈迦さまのように生きる事が出来るはずです」という言葉に出会った事があります。お釈迦さまの姿を真似、心を一つにする摂心の修行に御縁をいただけた事は、本当に尊いことだったと思います。

当日、私と時間を共にしていただいた全ての皆様、坐禅を通じ生きる喜びを教えていただいた事に、心より感謝いたします。

合掌。





## 姉体小学校坐禅体験

令和6年9月20日（金）、奥州市立姉体小学校4年生の生徒ら約50名が社会科見学の一環で正法寺を訪れ、法堂内で坐禅体験をされました。坐禅が初めての子は、静かな時間を過ごした事に感動を覚えた様子でした。



## 第2回法堂姫神コンサート

令和6年10月5日（土）、正法寺（御本堂）を会場に、「第2回・法堂姫神コンサート」が開催されました。

これは、坐禅という文化を発信し、正法寺の大きな法堂を奥州市の魅力として伝えるために開催されています。

前回公演された般若心経コラボ曲のほか、新たに収録した「妙法蓮華経如来寿命品偈」の読経と姫神とのコラボレーションが新曲として演奏されました。午前の部と午後の2部公演となり、たくさんの皆様のご来場をいただきました。

午後の部は13時から15時の日程で公演致しました。

大好評をいただき、本年も開催の方向で準備を進めております。開催の情報は、公式ホームページのほかSNSなどで告知予定です。

【第3回・法堂姫神コンサート】

令和7年9月27日（土）午前・午後2部公演予定



## 月例法話会

令和6年10月6日（日）、年内最終回となった月例法話会は、盛田正孝山主が法話を致しました。「私たちの命は、かけがえない命。いただいた命だからこそ、御先祖様への供養が大切であることを忘れてはいけない」とお話し頂きました。その後は、参加者の皆様と椅子坐禅をして、静かな時間を過ごし、御法話の余韻を楽しみました。

本年も恒例となりました月例法話を開催致します。参拝の方々に少しでも禅の教えを伝えられるように、4回の法話を予定しております。本年は、東北管区センター布教師の方々にもご法話を担当していただく予定です。

第一回は、6月1日、海野義範布教師を皮切りに法話を開催致します。心穏やかに過ごすヒントを見つけにいられてはいかがでしょうか。



## 太祖大師七〇〇回大遠忌 法要ならびに令和6年度 梅花流岩手県奉詠大会

令和6年10月23日（水）、曹洞宗岩手県宗務所主催により、盛岡市内のホテル紫苑を会場に磐山紹瑾禅師七〇〇回大遠忌法要併修、令和6年度梅花流奉詠大会が開催されました。奉詠大会に先立ち、大遠忌法要を大本山總持寺副貫首でもある盛田正孝山主が導師を務め修行致しました。

正法寺では、梅花流特派師範の齋藤弘頭老師（奥州市・大林寺住職）を講師にお招きし、梅花講習会を実施しております。当日は齋藤老師の計らいで正法寺の修行僧が登壇奉詠に挑みました。緊張しっぱなしの登壇でしたが、県内講員の皆様に温かく見守っていただき、無事に奉詠することができました。修行僧にとっても素晴らしい体験となりました。





## 拝登諷経・報恩諷経

令和6年11月18日（月）、当山十五世得道芳随大和尚所縁の御寺院様方が御来山され、拝登諷経並びに報恩諷経を厳修されました。初めに拝登諷経の導師を愛知県廣圓寺住職、佐野隆啓老師が務められ、また併修にて当山十五世得道芳随大和尚忍光二十七回忌報恩諷経を盛田正孝山主が導師を務め、それぞれ厳修致しました。

また同日、宮城県第一宗務所寺院会（長徳寺内・小林恵子会長）の一行が正法寺を団体参拝で御来山。法要に随喜され焼香を賜りました。



## 除夜の鐘

令和6年大晦日、23時45分、庫裡鐘楼堂に於いて、般若心経を誦経。続いて、盛田正孝山主が「除夜の鐘」の第一声目を撞鐘しました。続いて、法堂に於いて、新年を迎えて一番最初の朝課を修行。誦経中、参詣参列者にお焼香いただきました。23時頃から先頭に並んだ男性は、「来年喜寿を迎える特別な年なので一番最初に撞きたい」と意気込んでおられました。



## 令和7年元朝大祈祷会

令和7年元旦、11時打出し、法堂に於いて、盛田正孝山主が導師を務め、令和7年「元朝大祈祷会」を厳修致しました。事前に祈祷札のお申込をされた願主の方々に加え、初詣客を合わせて、100名程の方々が参列、お焼香いただきました。

本年もたくさんさんの祈願お申込をいただきました。誠に有り難うございました。



## 寒行托鉢

奥州市の冬の風物詩となっている「正法寺寒行托鉢」が令和7年1月5日（日）から節分の2月2日（日）迄の一ヶ月間行われました。正法寺修行僧、僧堂役寮、近隣寺院が水沢の街を歩きました。今年は天候が穏やかな日が続きましたが、大寒の日は、木々の枝を真っ白な氷が覆い、大寒らしい、しばれる中での托鉢となりました。沿道に出でくる方々の笑顔と声かけに後押しされて、寒さの中を歩くことができました。



## 釈尊涅槃会

令和7年2月15日（土）、盛田正孝山主が導師を務め、「釈尊涅槃会」を厳修。お釈迦さまの御遺徳を偲びました。





# 文化財防火デー消防訓練

令和7年1月19日(日)、奥州金ヶ崎行政事務組合水沢消防署、奥州市教育委員会が、文化財防火デーの取り組みとして、正法寺を会場に消防訓練を実施されました。年に2回、消防設備の法定点検と同時に、安居者は防火訓練に参加します。落ち着いた行動で火災伝達、受付から消防署への火災通報、ならびに消火器による初期消火、および放水銃による消火活動訓練に参加し、日頃の訓練の成果を発揮致しました。



## 送行者紹介

宮城県 第359番 保昌寺 徒弟  
沼田 凌成兄



宮城県 第67番 同慶寺 徒弟  
石川 永観兄



東京都 第386番 龍昌寺 徒弟  
石原 大輔兄



秋田県 第116番 龍安寺 徒弟  
熊谷 浩雄兄



## 送行にあたり

東京都 第386番 龍昌寺 徒弟  
石原 大輔

私は令和4年8月に正法寺専門僧堂に上山。2年間安居させていただきました。在家出身という事もあり、お寺での生活は慣れない事、分からない事が多く、初めの頃は戸惑いました。

山内では年齢も価値観も異なる修行僧達と24時間365日、厳格な序列の中で生活を共にします。一人一人を認めて尊重しなければ人間関係もうまくゆきません。修行中、様々な困難がありましたが、その原因は他の誰かや何かにあるのではなく、物事は起こるべくして起こっている。そして、変える事ができるのは自らの行い、自らの有り様だけである。

自分を変えれば結果も変わると修行を通して理解することができました。この学びを忘れずに、送行した後も、和合の精神を大切に歩んでゆきたいと思えます。そして2年間親身になって面倒を見て下さった山主老師、後堂老師、単頭老師、諸役寮の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

秋田県 第116番 龍安寺 徒弟  
熊谷 浩雄

令和4年秋、香積台の前に立ち木版を3打し、上山した日から2年の月日が経ちました。私は実家がお寺にも関わらず、進退作法、お経や偈文の唱え方、法衣の着方すら分からず、とても不安でした。正法寺専門僧堂の皆様方の丁寧な御指導があり、今日までの安居を無事送ることができ感謝しております。

制中では御縁もあって、書記和尚の役をいただき貴重な経験を積むことができました。また總持御開山瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌予修法要、さらには大本山總持寺での大遠忌慶讃法要特別研修への随喜、岩手県梅花流奉詠大会への登壇と正法寺専門僧堂ならではの経験をさせていただきました。一人の僧侶として、大人として、自身の成長を感じられた濃密で充実した2年間でした。ですが、この安居生活は修行のための修行をしたに過ぎず、本当の修行はこれからになります。師寮寺での修行生活において、初心を忘れず一人前の和尚となるよう精進してまいります。お世話になりました。





## 安居者募集中

正法寺専門僧堂では、安居者を募集しております。少子化が進む現代において、盛田正孝山主の考える僧侶教育を実践するべく、元大本山永平寺維那を務めた春日和光後堂をはじめ、現在は13名の役寮が従事し修行僧の育成に励んでおります。四九日においても暁天を欠かさずおこなう山風のなかで、維那和尚による法要進退、典座和尚による精進料理、特派布教師による布教の心得、梅花流特派師範による梅花流講義のきめ細やかな指導により、多岐にわたる経験を積むことができるのが正法寺専門僧堂の特徴です。

僧堂の在り方が問われる今、お弟子様の修行の場として、正法寺専門僧堂をご案内いただければ幸いです。安居募集期間は、春と秋の解間期間となりますが、制中間間においてもお受けすることができます。その際は、ご相談ください。

また、参禅の経験を長く積まれた方で、本来の修行を経験してみたい一般の方の修行も募集しております。ご本人の希望をお聞きしながら、期間や内容を決めることができますので、修行体験をご希望の方はご連絡ください。ただし、修行には、参禅道場からのご推薦をいただいております。

正法寺専門僧堂は年間2期間の開旦過を設け、弘法利生を志す安居者を募集しております。

夏安居開旦過 1月20日～3月31日 / 冬安居開旦過 7月20日～9月30日

### 《掛搭資格》

※曹洞宗の僧籍簿に登録されている者であって中学校卒業以上の者。

本山僧堂への安居修行後、更なる坐禅修行、参究・実践を積まれたい方。諸事情により、本山僧堂への安居が難しい方も御相談下さい。(※正法寺専門僧堂則より引用)

僧堂安居を希望される方は、「正法寺専門僧堂 監事寮」までお問い合わせ下さい。監事寮より掛搭志願資料をお送り致します。

正法寺専門僧堂 監事寮

Tel. 0197-26-4041(代) / Fax. 0197-26-4107(代) / Url. [shoboji.net/professional\\_sodo/](http://shoboji.net/professional_sodo/)

受付時間 9:00～17:00 (11月～3月は16:00まで) 無休





